

様式2 【生活様式などの無形のもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開 (可) ・ 否)

区分	1. 森づくり 4. 森と暮らし	2. 森の恵み 5. 森の文化財	3. 森と技 6. 森の風景
分野 (ふりがな)	(分野) 建築儀礼	(ふりがな) けんちくぎれい	
地域独特の呼び方	—	—	
タイトル	上棟式 (建前、棟上げ)		
伝承地域	三島町 大石田		
由来	(いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで (いつまで) 伝えられてきたか) 県内では、一般に「建前」と呼んでいる。貞享2年(1685)の風俗帳の記載から、現在のような儀礼はすでに見られた。		
内容	(内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども) 大工が刻み終われば吉日を選んで棟上げをする。 一般に、火難除けから壬辰 (みずのえたつ) の日が多く選ばれる。壬辰の日に全ての柱の立ち上げが出来ない場合は、乾の隅柱1本だけを立て、日を越して全部を立てることもある。柱を立て梁を上げ、桁を踏み、合掌組や小屋組が出来、棟木が上がれば上棟式となる。 棟木に五色の旗、東から赤・黄・青・弓・白・紫と立て、弓は鶴亀または鍾馗等の絵を描き矢先 (鏃) とし、白木綿を弦とし、細い木で弓を作り、鏃を鬼門、艮 (うしとら) の方向に向けて構えさせる。これに扇3本を日輪を形とって結び、さらに女の持ち物、鏡・櫛・簪 (かんざし) ・笄 (こうがい) ・髻 (かもし) ・針・糸・箆 (おさ) ・わく等を結ぶ。家の守り神は、女の神「おかまさん」と言い、この家に住むことの出来る意である。中央に御幣を飾り、白米、神酒、塩、二つまたは三つ重ねの餅を二つか三つ供える。他にすめ、生き泥鰌等の魚と大根等の野菜、一升を百に丸めた餅に大根を小さく切って混ぜて供える。また、一文銭 (5円玉) を建て主の年の数だけ供え、家の四隅の柱の上に二つまたは三つ重ねの餅を供える。 生き泥鰌は水の中、大根は胸がやけない。→水で火を消し家が焼けない意である。また、建て主、大工の棟梁、元山の頭は、風呂に入って身を浄め、上に上がって拝し、棟梁が祝詞をあげて、四方の柱を掛矢で打って四方固めをし、供えた餅と銭を蒔く。終わって、大工、手伝いに来た人全員で簡単な祝宴を催す。三島町から金山・昭和・只見・南会津・下郷の旧御蔵入地方では、戦前までヒブセ (火伏せ) または、ヒブセのカミ (火伏せの神) といって男根と女陰を作り、棟木に奉納する習俗があった。現在も僅かに行う地域もある。建前の日には、一坪ほどの板で囲い主人夫婦が寝る習俗があった。		
文化財等の指定状況	—		
問い合わせ先	三島町教育委員会	電話0241-48-5599	

【継承活動を行っている方がいる場合】

個人	氏名（ふりがな）				※顔写真がありましたら、コピーか電子ファイルをご恵願います。（貼り付けずに、名前がわかるようにして同封ください。）
	性別・年齢 生年月日	男 ・ 女	歳	年 月 日 生	
	住所・電話	〒 電話			
	職 業				
団体	団体名（ふりがな）				
	代表者氏名（ふりがな）				
	団体の設立年月日	明治・大正・昭和・平成		年 月 日	
	問い合わせ先				電話

【フリーフォーマット】キーワード

棟上げ式祝詞

カケマクモアヤニカシコキ、タオキホオヒノミコト、ヒコサシリノミコト、ヤココロオモイカネノミコトヲハジメマツリ、コダクミノミオヤククノチノミコト、ヤブネトヨウケヒメノミコトノオオカミタチノマエニ、カシコミカシコミモマウサク。

センジコダクミ「大工氏名」ガコノ「大宮・大御堂」ヲツクリハジメルトキニノミマウシク、カクタヤスカラヌコトヲバ、アガスメカミタチマモリタマヒ、タスケタマヒテ、ノリノマニマニヒラタケクヤスラケク、コトナシヲヘシメヘト、ノミマヲシキ、サレヲノミマヲシモシマク、タガウコトナクアヤマツコトナク、ツクリオエシメルヲ、タツトミウレシミ、キョウノイクヒノタルヒニヨロコビノイヤシロト、オオミキオオミケヲ、ククヘモノニオキタラシテ、カシコミカシコミモタタテコトヲハマツルサマヲ、キコシメシタイマモイマモト「大宮・大御堂」ヲヤスマヤトアガスメカミノミタマヒテ、ツキタチタルハシラ、トリアゲタルムナギ、ケタハリノキカヒ、ドヨミナルコトナク、ウチカタメタルクキノユルヒ、トリフケルイラカノソソギナク、チヨトコトハニマモリタマヒヒサキハヒタマヒト、カシコミカシコミマモウス

維持平成 年 日 謹白

